

令和3年度 加古川南高校 インスパイアハイスクール事業

活動報告

事業 : 防災講演会
テーマ : 必ずやってくる人生の危機 「災害」から命を守る
講師 : 兵庫県立大学環境人間学部 木村 玲欧 教授
実施日 : 令和3年7月19日(水)
場所 : 加古川南高校 体育館

この日、兵庫県立大学環境人間学部の木村玲欧先生をお招きし、上記のテーマについて講演をしていただきました。

始めに、進路決定についてのアドバイスをしていただく中で、災害時だけが危機管理を必要とする場面ではないことを教えていただきました。その後、加古川市のハザードマップを見ながら洪水や地震が起こった時に予想される被害を確認し、災害を「他人ごと」ではなく「我がこと」として認識することの重要性を学びました。

途中、今年に起こった災害の様子を記録した映像や災害時の注意点について取りあげた番組を見ましたが、「自分は大丈夫だろう」という考えで見ている感覚に気づく瞬間がありました。また、知識を持っていることで防げる危険がたくさんあることにも気づき、積極的に学ぶことの大切さを再確認しました。

今月は大雨が続き、水害を意識させられる場面もあったため、水害を「我がこと」と捉えるようになった生徒もいるのではないかと思います。警報に対する新たな解釈も忘れずに、防災の観点から日々の過ごし方を見直していきたいと考えるきっかけとなった講演会でした。



<生徒の感想>

先日起こった熱海の土石流のように、災害というものは「いつ、どこで起こってもおかしくないもの」ということを再認識させられました。特に、風速50～60m/sの台風では、スリッパなどの比較的柔らかいものでも窓ガラスを破り、人の命を奪いかねない物となってしまいます。「家の中にいるから大丈夫、安心できる」ではなく、災害時には非日常であるという意識を持ち、「正しい判断」や「適切な行動」など、木村先生が仰っていた、自分の命は自分で守らなければならない、という、この「大災害時代」であるがゆえの考え方を常に持たなければならないと感じました。

自然が変化し、災害が身近になった今、災害についての意識を「めったに起きないもの」ではなく、「頻繁」に起き、その度命を脅かすものだというように変えるべきだと思う。自分の命の危険性がある時に実効性のある非難ができるように、情報や知識を手に入れ、今ある状況を判断して行動する力を高める必要があると思った。ハザードマップを活用して身の回りや生活の範囲での危険性をよく知り、災害に対する備えを充実させるなど、災害が起きた時に「想定内」だと思えることを増やしておこうと思う。災害時、自分の命は自分で守る「わがこと意識」の徹底、水平避難、垂直避難などの適切な行動、警報、避難指示の意味を正しく理解することを大切にしようと思う。

災害が近年増えていて、自然災害がいつ起きてもおかしくない状態になっていることを一人一人が理解しておかないといけないと思いました。災害が起きた時に焦らず冷静に対処法を考え、行動することで生存率が変わってくることがわかりました。災害が起きた時に靴はスニーカーを履くのがいいなど知っているか知らないかだけでも違ってくることわかったので、この講演会を機にどのように対処するかをハザードマップなど使って調べ、実際に起きた時に自分の命を守るためにも災害時を想定した準備をしておかないと命は無いなと思ったので、いい勉強になりました。貴重な講演会有難うございました。

今回の防災講演会を聴いて、改めて自然の怖さを感じました。
私はテレビで見るような大きな被害に遭ったことはありませんが、「我がこと意識」で常に防災について考える必要があるなと思いました。

間違った認識は命を落としてしまうかと思うと恐ろしいです。正しい知識を得るために日ごろから防災について考えたり、ニュースを見たりといったことをしていこうと思いました。

災害で家族が被害に遭ってしまうことを想像するだけで本当に恐ろしいし、そんな事が起きないようにも、家族で話し合う時間も必要なのかなと思いました。

今回聞いた話をこれからの生活に活かしていけるよう、防災について勉強したいです。